

平成27年度

川崎市自動車運送事業会計決算の概況について

交 通 局

1 平成27年度自動車運送事業会計決算概況

(総括事項)

市バス事業は、市民の大切な公共交通機関として重要な役割を果たしています。しかし、社会経済情勢の変動等により、経営を取り巻く環境は依然として厳しい状況であり、安全を第一の使命としつつ、お客様に満足いただける利用しやすいサービスの提供に向けて、持続可能な経営を行うため、経営の効率化に努めております。

平成27年度の経営状況については、収入としては、需要の変化に応じたダイヤ改正等により乗車人員の増加を図り、乗車料収入全体として前年度を上回りました。支出としては、営業所の管理委託の継続的な実施、時間外勤務の抑制などによる費用の節減、軽油価格の大幅な下落による自動車燃料費の減少などにより、経常的な支出として前年度を下回りました。

また、前年度に地方公営企業会計基準の見直しに伴う退職給付引当金の一括計上などを実施したことから、支出額全体としては前年度を大幅に下回り、収益的収支は黒字決算となりました。

今後も輸送の安全性を着実に確保するとともに、さらなる経営改善とお客様サービスの向上に取り組んでまいります。

(1) 営業状況

(運輸成績)

事業の根幹である乗車料収入は、乗合乗車料収入と貸切乗車料収入を合わせ 77億8,846万3,054円で、前年度と比較して1億1,921万8,663円の増、乗車人員は4,930万6,207人で前年度と比較して93万885人の増となりました。

(安全な輸送サービスの確保)

お客様に安全・安心な輸送サービスを確実に提供するため、運転手グループ制の活用、大型液晶モニターを活用した電子掲示板による情報伝達など、運行管理体制の充実・強化に取り組むとともに、事故の発生を未然に防ぐための取組として、学校における交通安全教室の開催、自転車駐輪場への自転車接触事故に対する注意看板設置などにより、運輸安全マネジメントを着実に推進しました。

(安心・快適なサービスの充実)

市立川崎高校附属中学校の生徒数増加に伴い、川崎駅からの直行便を新設するとともに、武蔵中原駅始発の電車への乗り継ぎなど駅におけるバスと電車との接続の改善に取り組みました。また、多客時の対応として、平日の朝の時間帯における利用者が多い渡田線や宮内線の増便、年末に柿生線（深夜バス）の増便を実施するなど、市バスネットワークの充実に取り組みました。

バス停留所施設の改善としては、上屋 8 基、照明付バス停留所標識 20 基、停留所ベンチ 51 脚の整備を行うとともに、GPS と連動したタブレット型停留所運行情報表示器を 5 台購入し、市バスの運行情報を提供する「市バスナビ」サービスの充実を図りました。

さらに、車いす利用者に、より安全かつ安心して市バスを利用してもらうため、当初計画より前倒しして、全車両に装着が簡単な「巻き取り式車いす固定ベルト」を整備しました。

（経営基盤の充実・強化）

平成 26 年度に引き続き上平間営業所及び菅生営業所について、民間事業者への管理委託による運行を行うとともに、老朽化が著しい上平間営業所の建て替えに向けた基本設計を実施しました。

また、事業基盤を支える人材について、退職動向を踏まえた計画的な採用を実施するとともに、公募嘱託運転手について、短時間勤務の職の設置、希望する営業所での採用を行うなど人材の効率的な確保を図り、運転技能コンクールの開催、模範となる職員への市長表彰の新設、職員表彰受賞歴のバス車内名刺への掲出開始など人材の育成を推進しました。

（社会的要請等に対応した事業の推進）

バス車両の購入（1 両）にあたり、バリアフリーに配慮し、バリアフリー法に適合した低床バスの導入率 100% を維持するとともに、環境に配慮し、ハイブリッドノンステップバスを拡充しました。

また、地域社会の一員として、市バスをより身近に感じていただくため、カワサキハロウィンパレードにおけるハロウィン装飾バスの展示及び運行、川崎区新入学児童「交通安全絵のコンクール」応募作品を展示したギャラリーバスの運行開始、ハローキティの「川崎市バス♥ナビゲーター」への任命、ハローキティと市バスキャラクター「ノルフィン」とのコラボデザインによるラッピングバスのお披露目等を行いました。

（2）経営成績

収益的収支は、事業収益 98 億 875 万 6,942 円に対して、事業費用は 94 億 1,573 万 4,026 円で収支差引は 3 億 9,302 万 2,916 円の黒字となり、消費税等を除いた収支差引では、3 億 8,643 万 2,613 円の純利益となりました。この結果、平成 27 年度未処理欠損金は 25 億 4,810 万 8,793 円となりました。

また、資本的収支は、収入 5,951 万 4,169 円に対し、支出 6 億 7,853 万 8,522 円で、差引 6 億 1,902 万 4,353 円の不足となり、損益勘定留保資金等で補てんしました。なお、資金不足額は発生しませんでした。

2 平成27年度自動車運送事業会計決算（総括表）

（単位：円、％）

(1) 予算執行状況(税込)

ア 収入

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
1 収益の収入	9,957,840,000	9,808,756,942	△ 149,083,058	98.5
2 資本の収入	91,049,000	59,514,169	△ 31,534,831	65.4
合 計	10,048,889,000	9,868,271,111	△ 180,617,889	98.2

イ 支出

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
1 収益の支出	10,171,355,000	9,415,734,026	△ 755,620,974	92.6
2 資本の支出	734,459,000	678,538,522	△ 55,920,478	92.4
合 計	10,905,814,000	10,094,272,548	△ 811,541,452	92.6

(2) 総合収支

区分	収入	支出	収支差引
総合収支	9,868,271,111	10,094,272,548	△ 226,001,437

(3) 財源収支

項目	金額	内訳
①総合収支差引額	△ 226,001,437	
②当年度分損益勘定留保資金	326,583,552	減価償却費 425,988,630 固定資産除却損 7,520,907 引当金 △ 42,824,860 長期前受金戻入 △ 64,101,125
合 計 ③ = ① + ②	100,582,115	当年度財源余剰(△不足)額

(4) 累積財源過不足額

前年度末財源余剰(△不足)額	④	△ 95,332,104
当年度財源余剰(△不足)額	③	100,582,115
当年度末財源余剰(△不足)額	④ + ③	5,250,011

(5) 経営成績(税抜)

科目(費用)	金額	科目(収益)	金額
営業費用	8,839,186,254	営業収益	7,904,252,710
営業外費用	64,528,545	営業外収益	1,388,892,018
特別損失	3,675,712	特別利益	678,396
総費用	8,907,390,511	総収益	9,293,823,124
当年度純利益	386,432,613	当年度純損失	—
前年度繰越利益剰余金	—	前年度繰越欠損金	2,934,541,406
当年度未処分利益剰余金	—	当年度未処理欠損金	2,548,108,793

3 業務量

(1)乗合自動車事業

区 分	平成27年度		平成26年度		比較増△減	
	数量	1日平均	数量	1日平均	数量	1日平均
期末営業キロ	194.70 km	-	195.14 km	-	△ 0.44 km	-
営業日数	366 日	-	365 日	-	1 日	-
期末在籍車両数	335 両	-	338 両	-	△ 3 両	-
延実働車両数	107,468 両	294 両	107,561 両	295 両	△ 93 両	△ 1 両
実車走行キロ	13,069,656 km	35,709 km	13,171,362 km	36,086 km	△ 101,706 km	△ 377 km
乗車人員	49,077,479 人	134,091 人	48,118,950 人	131,833 人	958,529 人 2.0 %	2,258 人 1.7 %
増減率						
定期	11,898,530 人	32,509 人	11,428,127 人	31,310 人	470,403 人	1,199 人
うち特別乗車証分	2,819,318 人	7,703 人	2,852,756 人	7,816 人	△ 33,438 人	△ 113 人
定期外	37,178,949 人	101,582 人	36,690,823 人	100,523 人	488,126 人	1,059 人
うち高齢者外出 支援乗車事業分	5,162,164 人	14,104 人	4,982,626 人	13,651 人	179,538 人	453 人
うち障害者外出 支援乗車事業分	2,362,811 人	6,456 人	2,340,233 人	6,412 人	22,578 人	44 人
乗車料収入(税抜)	7,759,062,128 円	21,199,623 円	7,639,747,541 円	20,930,815 円	119,314,587 円 1.6 %	268,808 円 1.3 %
増減率						
定期	1,532,908,057 円	4,188,273 円	1,480,401,786 円	4,055,895 円	52,506,271 円	132,378 円
うち特別乗車証分	410,482,840 円	1,121,538 円	415,368,500 円	1,137,996 円	△ 4,885,660 円	△ 16,458 円
定期外	6,226,154,071 円	17,011,350 円	6,159,345,755 円	16,874,920 円	66,808,316 円	136,430 円
うち高齢者外出 支援乗車事業分	1,034,694,448 円	2,827,034 円	998,679,737 円	2,736,109 円	36,014,711 円	90,925 円
うち障害者外出 支援乗車事業分	260,677,941 円	712,235 円	257,540,255 円	705,590 円	3,137,686 円	6,645 円

(2)貸切自動車事業

区 分	平成27年度		平成26年度		比較増△減	
	数量	1日平均	数量	1日平均	数量	1日平均
営業日数	366 日	-	365 日	-	1 日	-
期末在籍車両数	5 両	-	5 両	-	0 両	-
延実働車両数	529 両	1 両	629 両	2 両	△ 100 両	△ 1 両
実車走行キロ	27,970 km	76 km	31,156 km	85 km	△ 3,186 km	△ 9 km
乗車人員	228,728 人	625 人	256,372 人	702 人	△ 27,644 人 △ 10.8 %	△ 77 人 △ 11.0 %
増減率						
乗車料収入(税抜)	29,400,926 円	80,330 円	29,496,850 円	80,813 円	△ 95,924 円 △ 0.3 %	△ 483 円 △ 0.6 %
増減率						

※ 再掲(単位:人、円)

乗車人員計(乗合+貸切)

乗車人員(特別乗車証分、高齢者分並びに障害者分除く)

特別乗車証分

高齢者外出支援乗車事業分

障害者外出支援乗車事業分

乗車料収入計(乗合+貸切)

乗車料収入(特別乗車証分、高齢者分並びに障害者分除く)

特別乗車証分

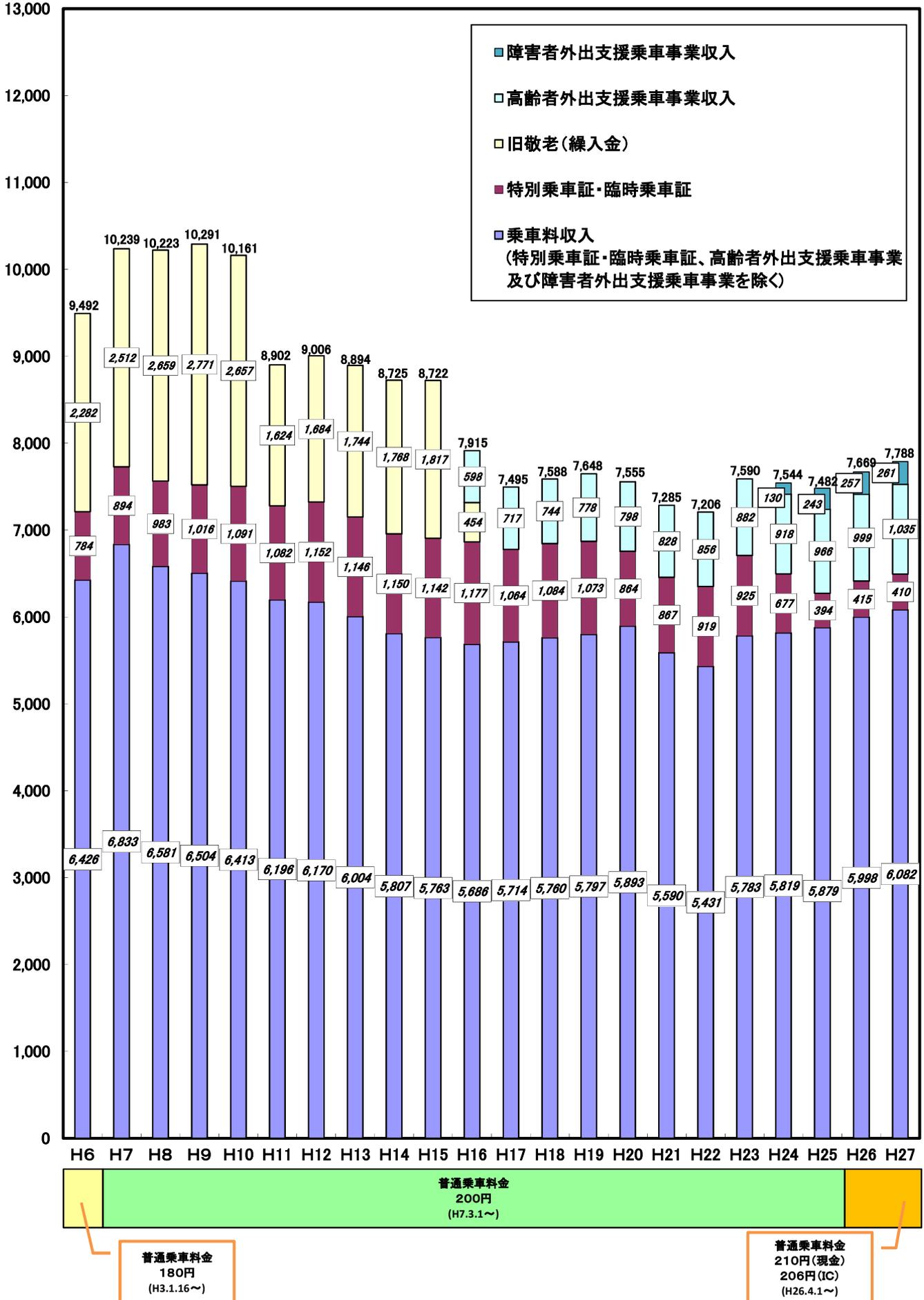
高齢者外出支援乗車事業分

障害者外出支援乗車事業分

	平成27年度	平成26年度	比較増△減	増減率
乗車人員計(乗合+貸切)	49,306,207	48,375,322	930,885	(1.9%)
乗車人員(特別乗車証分、高齢者分並びに障害者分除く)	38,961,914	38,199,707	762,207	(2.0%)
特別乗車証分	2,819,318	2,852,756	△ 33,438	(△ 1.2%)
高齢者外出支援乗車事業分	5,162,164	4,982,626	179,538	(3.6%)
障害者外出支援乗車事業分	2,362,811	2,340,233	22,578	(1.0%)
乗車料収入計(乗合+貸切)	7,788,463,054	7,669,244,391	119,218,663	(1.6%)
乗車料収入(特別乗車証分、高齢者分並びに障害者分除く)	6,082,607,825	5,997,655,899	84,951,926	(1.4%)
特別乗車証分	410,482,840	415,368,500	△ 4,885,660	(△ 1.2%)
高齢者外出支援乗車事業分	1,034,694,448	998,679,737	36,014,711	(3.6%)
障害者外出支援乗車事業分	260,677,941	257,540,255	3,137,686	(1.2%)

4 乗車料収入等（税抜）の推移

(単位 百万円)



5 財政健全化法における資金不足比率の状況

会 計 名	資金不足比率	経営健全化基準
自動車運送事業会計	— (資金不足となっていない)	20.0%

※資金不足比率は現段階での速報値であり、今後、監査委員の審査を経た上で議会に報告し確定します。